

⑧ 「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
AI・データサイエンス基礎	2	○	○	○	○						
教育データサイエンス	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 ○第4次産業革命とSociety5.0に向けてのビッグデータ、IoT、AI、ロボットの利活用について紹介する。「AI・データサイエンス基礎」(2回目) ○社会・産業の様々な領域における人間の知的活動とAIの関係性について説明し、複数技術を組み合わせたAIサービスについて概説する。「AI・データサイエンス基礎」(12回目)
	1-6 ○AI最新技術(畳み込みニューラルネットワーク、敵対的生成ネットワーク、強化学習など)の基礎原理と活用例を説明し、それらの技術を活用した新しいビジネスモデル(商品のレコメンデーションなど)を紹介する。「AI・データサイエンス基礎」(6回目)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 ○社会・産業で活用されているデータの種類(調査データ、実験データ、人の行動ログデータなど)を紹介し、構造化データと非構造化データとの違い、及びデータの収集・作成・整理・オープンの方法について説明する。「AI・データサイエンス基礎」(3回目)
	1-3 ○日常生活、生産・消費、研究活動、文化活動などにおけるデータ・AIの活用領域の広がり、及びAIが支援・サポートすることができる課題(仮説検証、原因究明、計画策定、判断支援など)について紹介する。「AI・データサイエンス基礎」(4回目)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 ○社会・産業の様々な領域における、データサイエンス・AIを、その領域の知見と組み合わせて利活用した実例を示しながら、予測、パターン発見、最適化、可視化などの方法について紹介する。また、特化型AIと汎用型AI、今のAIで出来ることと出来ないことなどの話題について概説する。「AI・データサイエンス基礎」(5回目)
	1-5 ○活用現場におけるデータサイエンス・AIのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、データの解析、解析結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案など)について説明し、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等における利活用の最新動向を紹介する。「AI・データサイエンス基礎」(6回目)

<p>(4) 活用に当たったの様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする</p>	3-1	<p>○データ・AIの倫理(1): ELSI、個人情報保護などについて説明する。「AI・データサイエンス基礎」(7回目)</p> <p>○データ・AIの倫理(2): データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護など、データ倫理の話題について説明する。「AI・データサイエンス基礎」(8回目)</p> <p>○データ・AI活用と社会の在り方(1): AI社会原則、及びデータバイアスについて説明する。「AI・データサイエンス基礎」(9回目)</p> <p>○データ・AI活用と社会の在り方(2): アルゴリズムバイアス、及びAIサービスの責任論について説明する。「AI・データサイエンス基礎」(10回目)</p> <p>○データ・AIの留意点: データ・AI活用における負の事例、情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性など)に関わる基礎知識(情報の暗号化、匿名加工など)を説明し、情報漏洩などについて事例紹介を行う。「AI・データサイエンス基礎」(11回目)</p>
	3-2	<p>○データ・AIの留意点: データ・AI活用における負の事例、情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性など)に関わる基礎知識(情報の暗号化、匿名加工など)を説明し、情報漏洩などについて事例紹介を行う。「AI・データサイエンス基礎」(11回目)</p>
<p>(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの</p>	2-1	<p>○データリテラシー(1): データ解析演習用のデータの内容と構成について説明し、データの種類(量的変数、質的変数)、データの分布(ヒストグラムなど)、データの代表値(平均値、中央値)及びばらつき(分散、標準偏差)について説明する。「AI・データサイエンス基礎」(13回目)</p> <p>○統計解析の基礎理論1(確率、期待値など)「教育データサイエンス」(3回目)</p> <p>○統計解析の基礎理論2(正規分布とその他の確率分布)「教育データサイエンス」(4回目)</p> <p>○推測統計の考え方「教育データサイエンス」(5回目)</p> <p>○不偏推定量(標準誤差、不偏分散、標本標準偏差)「教育データサイエンス」(6回目)</p> <p>○区間推定「教育データサイエンス」(7回目)</p>
	2-2	<p>○データリテラシー(2): データの表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図など)、及びデータの図表表現(チャート化など)の方法について説明する。「AI・データサイエンス基礎」(14回目)</p> <p>○χ^2検定[児童生徒対象の意識調査の分析]「教育データサイエンス」(10回目)</p> <p>○直接確率計算法、マクネマー検定[児童生徒の授業前後の意識の変容の分析]「教育データサイエンス」(11回目)</p>
	2-3	<p>○データリテラシー(3): データの解析ツール(エクセル)と表形式(csv、xlsx)のデータの基礎的な概念と操作方法(関数、並び替えなど)について説明する。最後に本コースのまとめを行う。「AI・データサイエンス基礎」(15回目)</p> <p>○t検定[児童生徒の学力調査の分析]「教育データサイエンス」(12回目)</p> <p>○対応ありt検定、t検定の注意点[児童生徒の授業前後の学力の変容の分析]「教育データサイエンス」(13回目)</p>

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

<p>データ・AIの利活用、及び統計的なデータ処理のための基礎的な知識・技能を獲得する。</p>
--

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和4 年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和4年度						令和3年度						令和2年度						令和元年度						平成30年度						平成29年度						履修者数合計	履修率
				履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数										
				合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性								
学校教育学部	668	160	640	160	69	91	156	66	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	160	25%						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
合計	668	160	640	160	69	91	156	66	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	160	25%						

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者
(責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的
上記専門部会は、学校教育学部教務委員会の下に置かれた専門部会であり、「AI・データサイエンス基礎」及び「教育データサイエンス」の企画・立案及び実施に必要な事項の策定を行う。
また、専門部会は、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」に定められた当該教育プログラムの点検及び評価を行い、その結果を公表する。

⑦ 具体的な構成員

所属等	職名	氏名
学部教務委員会委員長	副学長	須田 康之
AI・データサイエンス基礎授業担当教員	准教授	掛川 淳一
AI・データサイエンス基礎授業担当教員	講師	緒方 思源
教育データサイエンス授業担当教員	教授	森山 潤
教育データサイエンス授業担当教員	准教授	中須賀 巧
教育データサイエンス授業担当教員	准教授	宮田佳緒里
教育データサイエンス授業担当教員	准教授	澤山 郁夫

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和4年度実績	25%	令和5年度予定	50%	令和6年度予定	75%
令和7年度予定	100%	令和8年度予定	100%	収容定員(名)	640

具体的な計画

プログラムを令和4年度から開設し、学部生全員の必修科目としているため、学年進行の完成年度には履修率は100%となる予定である。

令和4年度: 25.0% ※実績

令和5年度: 50.0%

令和6年度: 75.0%

令和7年度: 100.0% ※令和7年度から全学年履修となる。

令和8年度: 100.0%

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

「AI・データサイエンス基礎」は、放送大学のオンデマンドコンテンツ10コマと本学教員による講義・演習5コマで構成されており、令和4年度に学校教育学部の教養科目群の基礎的アカデミック能力科目の必修科目として開設した。

授業の実施にあたり、履修者を2グループに分けて実施している。

「教育データサイエンス」の第2回～第7回では大教室2つをオンラインでつなぎ、一方の教室で行われる講義の映像と音声を、他方の教室で放映することで、受講者全員が教室で授業を受けられるようにしている。第9回～第15回では、個人のパソコンやタブレット端末を持参させるとともに、web上で無料で使用できる統計ソフト(js-STAR)を使用させることで、受講者全員が対面で授業を受けられるようにした。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

「AI・データサイエンス基礎」及び「教育データサイエンス」は必修科目であるため、必ず1年次に履修するよう履修指導を行っている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

「AI・データサイエンス基礎」については、第2回～第11回までを放送大学を利用したオンデマンド授業とし、反復学習を可能とした。また、第12回～第15回までは演習を含んだ講義を行い、演習課題により理解度を測ることとした。

「教育データサイエンス」については、すべての回において、事前にLMS(manaba)を通じて講義の資料を配布し、予習しやすくしている。また、授業後の課題提出もLMSを通じて行うことにより、各自のペースで復習できるようにしている。第2回～第7回の授業は、2つの教室をオンラインでつなぐ遠隔授業形式とし、教員がいないほうの教室にはTAを配置した。第9回～第15回の授業は、対面を基本としたが、感染症等で出席できない学生には授業の様子をZoomで同時配信するなど、柔軟に対応した。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

「AI・データサイエンス基礎」については、授業担当教員がオフィスアワーを設けており、不明な点があれば随時質問できるようにしている。また、第12回の授業内容の一部は、第2回～第11回のオンデマンド授業に関する質疑応答であった。第12回の授業までの2週間の間に、LMS(manaba)での通知機能とMicrosoft Formsのアンケートを利用することで、学生から、オンデマンド講義動画の内容の中で理解できなかった内容やより深く知りたい内容、及び講義動画では取り上げられていないが興味を持っているAI関連の話題などを収集した。

「教育データサイエンス」の第2回～第7回においては、授業後にLMSを通じて提出された演習課題の答案に対し、個別にフィードバックを行っている。第9回～第15回では検定統計量の計算等を行う際に、パソコンやタブレット端末の操作を必要とするため、160人の履修学生を4グループに分け、グループごとに授業担当教員とTAを配置して質問しやすくするとともに、学生同士で教え合うことのできる授業形式としている。また授業後には、授業の自己評価と演習課題の答案をLMSを通じて提出させ、質問に対しては個別または全体に対しフィードバックを行っている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

兵庫教育大学学校教育学部数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門部会

(責任者名) 須田 康之

(役職名) 理事・副学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	「AI・データサイエンス基礎」については、令和4年度から必修科目として開設したことから、1年次生の履修率は100%であり、単位修得状況も160人中160人(100.0%)であった。 「教育データサイエンス」についても同様に令和4年度から必修科目として開設したことから、1年次生の履修率は100%であった。単位修得状況については、160人中156人(97.5%)となっている。
学修成果	いずれの科目においても、適宜、受講生の理解度を確保するための課題を課している。また、学校教育学部において実施している学生による授業評価の項目「私は、この授業からもの見方や考え方について知的刺激を受けた。」「私は、事前準備をして授業に臨み、授業内容を振り返り、自ら理解を深める努力をした。」「毎回の授業の予習・復習にかけた時間は平均どれぐらいですか。」への回答状況や自由記述を分析することにより、授業に対する学生の積極的な取り組み状況を一定程度把握することができる。これらの結果を基に本教育プログラムの評価・改善を行っている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	「AI・データサイエンス基礎」「教育データサイエンス」のいずれについても、受講者全員による授業評価アンケートを実施しており、学生の積極的な取り組み状況や意見等を、次年度以降の授業改善に反映するための体制を整えている。また、FD推進委員会の下で授業全体における学生の理解度の分析を行っている。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	「AI・データサイエンス基礎」「教育データサイエンス」は必修科目であるため、受講者から他の学生への推奨を必要としない。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	「AI・データサイエンス基礎」「教育データサイエンス」は1年次生の必修科目であるため、令和4年度の1年次生は全員履修している。学年進行により令和7年度には全学部生の履修を達成予定である。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>本プログラムは令和4年度入学生から開設したため、プログラムを修了した卒業生はまだ出ていない。一方、本学では卒業時の進路調査や卒業後の追跡調査を定期的実施しているため、今後、プログラム修了者の活躍状況や学校現場等での評価を確認することが可能である。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>本学では令和4年3月に、大学の教員養成フラッグシップ大学構想に参画する民間企業13社、国公私立大学8大学、研究機関、教育委員会・学校、教育行政関係機関、NPOなど15機関で構成される「兵庫教育大学教員養成フラッグシップ大学コンソーシアム」を設置した。今後、本コンソーシアムに含まれる教育委員会・学校、教育行政関係機関を中心に、現場におけるニーズを確認した上で、教員養成により適した「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」となるよう反映させていくことを予定している。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>学生がAI・データサイエンスを学ぶ意義を十分に理解することができるよう、「AI・データサイエンス基礎」については、モデルカリキュラムリテラシーレベルの導入部分に準じた内容を展開している放送大学のオンデマンドコンテンツを用いている。また、学生が学ぶ楽しさを実感することができるよう、後半第12回～第15回では、具体的なデータの読み取り方や説明の仕方、扱い方について、演習を交えた学習活動を展開している。「教育データサイエンス」については、この後半に引き続き演習を交えた学習活動を重視するとともに、発展的内容を扱う後半では、受講生を1クラスあたり40名に分け、TAを配置した少人数指導を行うことで、受講生が粘り強く課題に取り組むためのサポート体制を整えている。</p>
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	<p>「AI・データサイエンス基礎」「教育データサイエンス」のいずれについても、今後、LMS(Learning Management System)上に予習・復習のためのオンデマンドコンテンツを充実させていくことを計画している。ただし、学生の負担過重とならないよう十分留意する。内容については、学生が身近に感じられるような具体例をできるだけ豊富に盛り込めるよう試みる。</p>

UB010040

A I ・ データサイエンス基礎【令和4年度以降入学生】

Basic Skills and Methods of AI and Data Science

①クラス

担当教員 緒方 思源、掛川 淳一

単位数 2

単位区分 必

開講学期 前期

開講曜日時限 木曜日1時限

授業方法 講・演

標準履修年次 1年

備考 Abzzz-Lazz150

【授業のテーマ及び到達目標】

【授業のテーマ】

データ・AIの仕組み・役割・影響・課題・利活用，および統計的なデータ処理の基礎

【到達目標】

データ・AIの利活用，および統計的なデータ処理のための基礎的な知識・技能獲得

【授業の内容・計画】

前半は（第2回～第11回），放送大学のオンデマンドコンテンツを活用して，社会におけるデータ・AIの利活用の動向，技術的な仕組みの概要，倫理的な課題等について学習する．後半（第12回～第15回）は，前半の学習を踏まえ，具体的なデータの活用方法について演習を交えて学習する．

後半回において，教員は，講義・演示と机間巡視を分担する．

《第1回》ガイダンス（放送大学教材のアカウント配付と受講方法の説明を含む．）〔講義・演習〕（緒方，掛川）

《第2回》社会で起きている変化〔講義・演習〕（オンデマンド）

《第3回》社会で活用されているデータ〔講義・演習〕（オンデマンド）

《第4回》データ・AIの活用領域〔講義・演習〕（オンデマンド）

《第5回》データ・AI利活用の技術〔講義・演習〕（オンデマンド）

《第6回》データ・AIの活用現場と最新動向〔講義・演習〕（オンデマンド）

《第7回》データ・AIの倫理（1）：ELSI，個人情報保護〔講義・演習〕（オンデマンド）

《第8回》データ・AIの倫理（2）：データ倫理：〔講義・演習〕（オンデマンド）

《第9回》データ・AI活用と社会の在り方（1）：AI社会原則，データバイアス〔講義・演習〕（オンデマンド）

《第10回》データ・AI活用と社会の在り方（2）：アルゴリズムバイアス，責任論〔講義・演習〕（オンデマンド）

《第11回》データ・AIの留意点：負の事例，情報セキュリティ〔講義・演習〕（オンデマンド）

《第12回》AIと社会の発展〔講義・演習〕（緒方，掛川）

《第13回》データリテラシー（1）：データを読む〔講義・演習〕（緒方，掛川）

《第14回》データリテラシー（2）：データを説明する〔講義・演習〕（緒方，掛川）

《第15回》データリテラシー（3）：データを扱う，およびまとめ〔講義・演習〕（緒方，掛川）

【成績評価の方法・評価項目・観点等】

【成績評価の方法】

授業内容に対する理解状況（評価割合：50%），演習課題の達成状況（評価割合：50%）により評価する．

【成績評価の観点】

「授業内容に対する理解状況」評価においては，放送大学オンデマンドコンテンツの内容に対する理解度を評価する．

「演習課題の達成状況」評価においては，データリテラシーに関する演習課題の達成度を評価する．

【テキスト・教材・参考書等】

【テキスト】

放送大学：「数理・データサイエンス・AI リテラシー講座」

【参考書等】

特になし．

上記以外の資料については，適宜配付する．

【対応する教員養成スタンダード】

対応する下記項目の資質・能力の形成を目指す．

幼稚園：

小学校：1～3

教科の指導（中学校）：

【事前事後学修】

【事前学修】（全30時間）

- ・あらかじめ次の内容を確認し，予習を行うこと．
- ・次の内容に関連する事項について，確認・復習を行うこと．
- ・放送大学の講座における各段階の「確認テスト」においては，誤った問題がある場合，その問題に関連する動画を再度視聴し，「得点率」が100%となるよう，再度受験すること．

【事後学修】（全30時間）

- ・学修した内容についての振り返り・復習を行うこと.
- ・授業時に示す課題を行うこと.

【その他】

- ・必要が生じた場合、本授業に関連した連絡については、manaba LMS により行う.
- ・第1回は対面方式として、授業のガイダンス、および第2回～第11回のためのアカウント配付を行う.
- ・第2回から第11回において受講した放送大学の各講座の「認証状」の提出を求める.
- ・第12回からの授業は原則として対面方式として、演習においては BYOD 端末を用いる.

UB010050

教育データサイエンス

Educational Data Science

担当教員 森山 潤、清水 優菜、澤山 郁夫、中須賀 巧、宮田 佳緒里

単位数 2

単位区分 必

開講学期 後期

開講曜日時限 月曜日2時限

授業方法 講・演

標準履修年次 1年

備考 Abzzz-Lazz151

【授業のテーマ及び到達目標】

- ・教育実践におけるデータ分析の意義を理解する。
- ・基礎的なデータ分析に必要な統計学を理解する。
- ・演習を通して基礎的なデータ分析の手法を習得する。

【授業の内容・計画】

第1～8回は全体講義，第9～15回はクラス別講義とする。

【全体講義】

- 第1回 ガイダンス，教育におけるデータ活用の意義と実務のイメージ(森山，清水)
第2回 データの種類に応じた要約と可視化(清水)
第3回 統計解析の基礎理論1(確率，期待値など)(清水)
第4回 統計解析の基礎理論2(正規分布とその他の確率分布)(清水)
第5回 推測統計の考え方(清水)
第6回 不偏推定量(標準誤差，不偏分散，標本標準偏差)(清水)
第7回 区間推定(清水)
第8回 前半テスト・まとめ(エビデンスに基づく教育改善の展望)(清水)

【クラス別講義】

- 第9回 統計的仮説検定の考え方
第10回 χ^2 検定[演習:児童生徒対象の意識調査の分析]
第11回 直接確率計算法，マクネマー検定[演習:児童生徒の授業前後の意識の変容の分析]
第12回 t検定[演習:児童生徒の学力調査の分析]
第13回 対応ありt検定，t検定の注意点[演習:児童生徒の授業前後の学力の変容の分析]
第14回 相関係数[演習:児童生徒の授業に対する意識の分析]
第15回 総合演習，まとめ[演習:第10～14回に関わる応用課題]

【成績評価の方法・評価項目・観点等】

- 講義・演習への積極的な取り組み状況(20%)，前半まとめテストの達成状況(40%)，後半演習課題の達成状況(40%)，
- ・講義では，講義内容に対する考察，自己課題化に向けた省察の状況を評価する。
 - ・前半まとめテストでは，基礎的なデータ分析に必要な統計学の理解状況を評価する。
 - ・後半演習課題では，統計的仮説検定の手法の習得状況を評価する。

【テキスト・教材・参考書等】

- ・適宜，資料等を配布する。

【対応する教員養成スタンダード】

対応する下記項目の資質・能力の形成を目指す。

幼稚園：

小学校：1～3，17，46

教科の指導(中学校)：

【事前事後学修】

- ・各内容について事前配布資料に基づく予習を行うこと。(30時間)
- ・授業後は，演習課題等に取り組むとともに，自己課題化に向けた省察を行うこと。(30時間)

【その他】

- ・アクティブ・ラーニング実施科目
- ・第1～8回は，ハイフレックス授業。第9～15回は対面授業
- ・学生への連絡事項はManabaにて行う。

学校教育学部

履修案内

令和4年度入学生用
(2022年度)

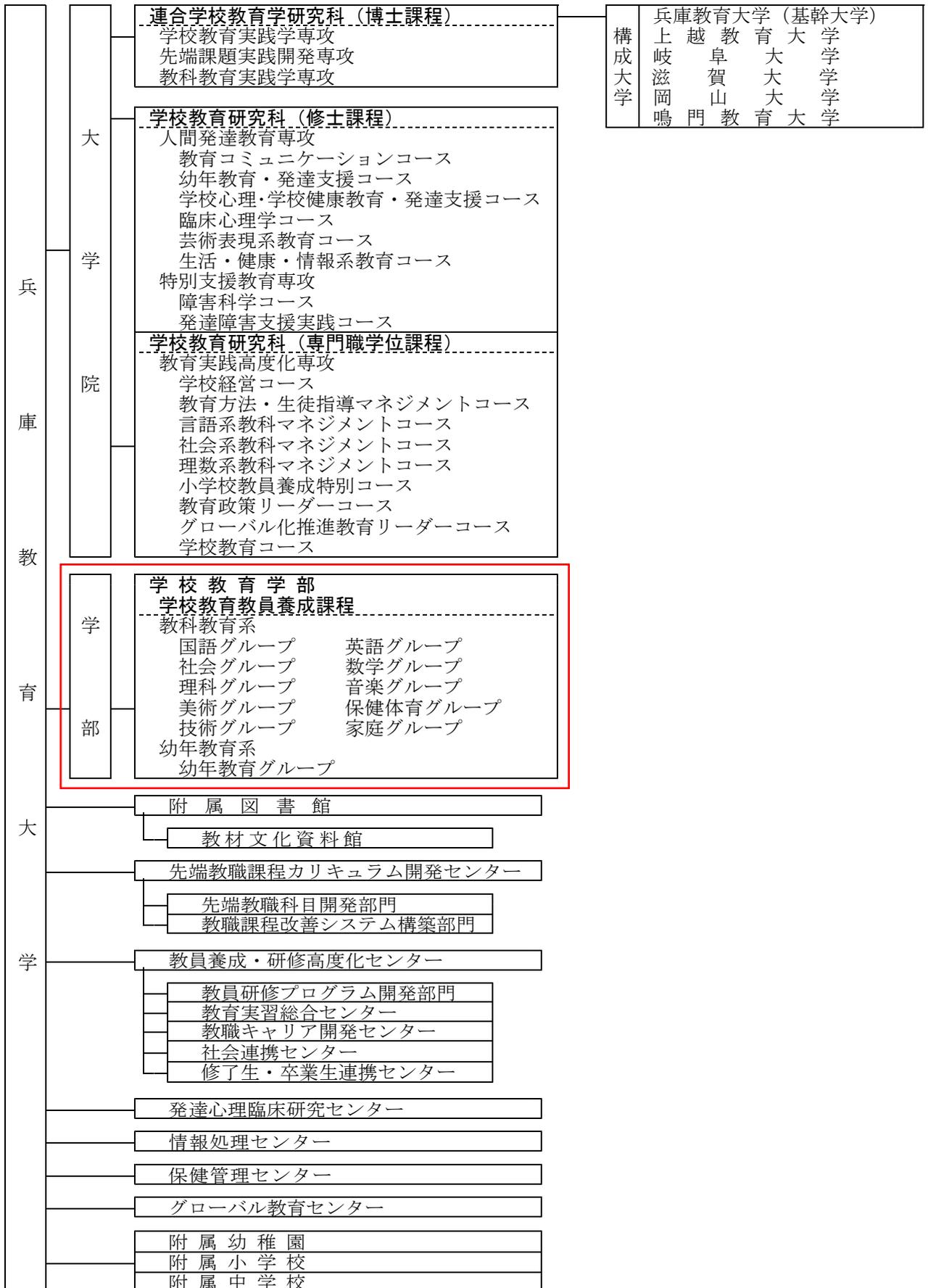


兵庫教育大学

第1 大学の組織

教育研究組織

本学の教育・研究組織は、次の組織図に掲げるとおりです。



1 教養科目群

区分	科目コード	授業科目	単位	必修・選択の区分		授業の方法	標準履修年次	履修方法	備考	
				必修	選択					
教養科目群	基礎的 アカデ ミック 能力科 目	ABzzz-Lazz101	クラスセミナーⅠ	2	2		演	1	左欄の授業科目について、10単位を修得すること。	
		ABzzz-Lazz102	クラスセミナーⅡ	2	2		演	1		
		Azzzz-Lazz204	教養ゼミ	2	2		演	2		
		ABzzz-Lazz150	AI・データサイエンス基礎	2	2		講演	1		
		ABzzz-Lazz151	教育データサイエンス	2	2		講演	1		
	社会課題探究科目	ABCzz-LbFa105	暮らしのなかの憲法	2	2		講	1	社会課題探究科目、理数系基礎科目及びグローバルスタディーズ科目から8単位以上を修得すること。ただし、社会ボランティア体験学習Ⅰ・Ⅱ、障害者理解と支援(入門)のうちから修得した単位のうち、上記の8単位に含めることができる単位数は、2単位までとする。	第66条の6 大学が独自に設定する科目
		ABzzE-LbEa206	同和教育と人権教育	2	2		講	2		
		ABCzz-Lbzz107	子どもと保育	2		2	講	1		
		ABzDz-Lbzz108	社会の中の言語文化	2		2	講	1		
		ABzDz-Lbzz109	芸術と人間	2		2	講	1		
		ABzDz-Lbzz210	環境問題と健康	2		2	講	2		
		ABzzz-Lbzz111	文学と読解	2		2	講	1		
		ABzDz-Lbzz112	社会認識のための地理情報	2		2	講	1		
		ABzzE-Lbzz313	生涯学習と人間形成	2		2	講	3・4		
		ABCzE-Lbzz314	人間関係とカウンセリング	2		2	講	3・4		
		ABzDE-Lbzz315	兵庫の教育	2		2	講	3・4		
	ABzzz-Lbzz116	社会ボランティア体験学習Ⅰ	2		2	演実	1～4			
	ABzzz-Lbzz217	社会ボランティア体験学習Ⅱ	1		1	実	2～4			
	ABCzz-Lbzz118	障害者理解と支援(入門)	2		2	講演	1～4			
	理数系基礎科目	AzzDz-Lczz119	数学基礎	2		2	講	1		
		ABzDz-Lczz120	物質とエネルギーの科学	1		1	講	1		
		ABzDz-Lczz121	生命と地球の科学	1		1	講	1		
		ABzDz-Lczz152	わくわくサイエンス実験	2		2	講演	1		
		ABzDz-Lczz122	基礎科学実験Ⅰ	1		1	実	1		
		ABzDz-Lczz123	基礎科学実験Ⅱ	1		1	実	1		
	グローバルスタディーズ科目	ABzzz-Lezz124	グローバルスタディーズⅠ	1		1	演	1～4		
		ABzzz-Lezz125	グローバルスタディーズⅡ	2		2	講演	1～4		
		ABzDz-Lezz126	海外教育体験実習	1		1	実	1～4		
	表現コミュニケーション科目	ABzDz-LdFc127	英語コミュニケーションⅠ	1	1		演	1	左欄の授業科目について、7単位以上を修得すること。ただし、外国人留学生は、母語を選択して、履修することはできない。※英語グループに所属する者は、英語コミュニケーションⅤ・Ⅵ・Ⅶの履修に代えてアカデミック英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴを修得すること。	第66条の6
		ABzDz-LdFc128	英語コミュニケーションⅡ	1	1		演	1		
		ABzDz-LdFc129	英語コミュニケーションⅢ	1	1		演	1		
		ABzDz-LdFc130	英語コミュニケーションⅣ	1	1		演	1		
		ABzDz-LdFc231	英語コミュニケーションⅤ	1	1		演	2		
ABzDz-LdFc232		英語コミュニケーションⅥ	1	1		演	2			
ABzDz-LdFc333		英語コミュニケーションⅦ	1	1		演	3			
ABzDz-Ldzz234		アカデミック英語Ⅰ	1	※1		演	2			
ABzDz-Ldzz235		アカデミック英語Ⅱ	1	※1		演	2			
ABzDz-Ldzz236		アカデミック英語Ⅲ	1	※1		演	2			
ABzDz-Ldzz237		アカデミック英語Ⅳ	1	※1		演	2			
ABzDz-Ldzz338		アカデミック英語Ⅴ	1	※1		演	3			
ABzzz-LdFc139		ドイツ語コミュニケーションⅠ	2		2	演	1			
ABzzz-Ldzz240		ドイツ語コミュニケーションⅡ	2		2	演	2			
ABzzz-LdFc141		フランス語コミュニケーションⅠ	2		2	演	1			
ABzzz-Ldzz242		フランス語コミュニケーションⅡ	2		2	演	2			
ABzzz-LdFc143		中国語コミュニケーションⅠ	2		2	演	1			
ABzzz-Ldzz244		中国語コミュニケーションⅡ	2		2	演	2			
ABzzz-LdFc145		韓国語コミュニケーションⅠ	2		2	演	1			
ABzzz-Ldzz246		韓国語コミュニケーションⅡ	2		2	演	2			
ABzzz-LdFd147	情報処理基礎演習	2	2		演	1	左欄の授業科目について、2単位を修得すること。	第66条の6		
ABzzz-LdFb148	体育Ⅰ	1	1		実	1	左欄の授業科目について、2単位を修得すること。	第66条の6		
ABzzz-LdFb349	体育Ⅱ	1	1		実	3				

2 教職キャリア科目群

(1) 教科教育系

区分	科目コード	授業科目	単位	必修・選択の区分		授業の方法	標準履修年次	履修方法	備考		
				必修	選択						
教職基礎科目	ABzzz-CaBa101	教育基礎論	2	}	2	}	2	講	1	左欄の授業科目について、12単位以上を修得すること。	教育の基礎的理解に関する科目
	ABzzz-CaBa302	教育史	2								
	ABCzE-CaBb103	教職原論	2	2			講	1			
	ABCzE-CaBc304	教育社会学	2	}	2	}	2	講	3		
	ABCzE-CaBc305	教育制度論	2								
	ABCDE-CaBd206	発達心理学	2	}	2	}	2	講	2		
	ABCDz-CaBd107	教育心理学	2								
	ABCDE-CaBe308	特別支援教育概説A	2	}	2	}	2	講	3		
	ABCDE-CaBe309	特別支援教育概説B	2								
	ABzDE-CaBf310	教育課程論	2	2			講	3			
教職支援科目	ABCDz-CbCa211	道徳教育論	2	2			講	2	左欄の授業科目について、13単位を修得すること。	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	
	ABzDz-CbCb212	総合的な学習の時間の理論と実践	2	2			講	2			
	ABCDE-CbCc313	特別活動論	2	2			講	3			
	ABzDz-CbCd214	教育方法論（情報機器及び教材の活用を含む。）	2	2			講	2			
	ABzDz-CbCd142	情報通信技術活用論	1	1			講演	1			
	ABCzE-CbCe315	生徒指導論（進路指導を含む。）	2	2			講	3			
	ABCzE-CbCg316	教育相談論	2	2			講	3			
	ABCDE-CbCf317	幼児理解論	2		2		講演	3			
	ABCDE-CbAe218	幼児教育指導総論	2		2		講演	2			領域及び保育内容の指導法に関する科目
	ABCDz-CbAe219	保育内容健康論	2		2		演	2			
	ABCDz-CbAe220	保育内容人間関係論	2		2		演	2			
	ABCDz-CbAe221	保育内容環境論	2		2		演	2			
	ABCDz-CbAe222	保育内容言葉論	2		2		演	2			
	ABCDz-CbAe223	保育内容表現論	2		2		演	2			
	AzCzE-Cbzz424	校種間連携教育論	2		2		講	4			
	ABCzE-Cbzz225	社会的養護	2		2		講	2			
	ABCzz-Cbzz226	外国人児童生徒のための日本語教育	2		2		講	2			
	ABzDz-Cbzz227	外国人児童生徒のための日本語教育（演習）	2		2		演	2			
	ABCzE-Cbzz328	部活動の指導と運営	1		1		講演	3・4			
	ABCzE-Cbzz229	学校精神保健学	2		2		講	2			
ABCDz-Cbzz230	教育・心理研究法	2		2		講演	2				
ABCzE-Cbzz331	学校・臨床心理学	2		2		講演	3・4				
ABzDz-Cbzz143	初級ピアノ実技	1		1		実	1				
ABzDE-Cbzz132	学校経営と学校図書館	2		2		講演	1～4				
ABCDz-Cbzz133	学校図書館メディアの構成	2		2		講演	1～4				
ABCDE-Cbzz134	学習指導と学校図書館	2		2		講演	1～4				
ABCDz-Cbzz135	読書と豊かな人間性	2		2		講演	1～4				
ABCDz-Cbzz136	情報メディアの活用	2		2		講演	1～4				
zzzzz-Cbzz337	学校図書館学Ⅰ	2		2		講	3・4				
zzzzz-Cbzz338	学校図書館学Ⅱ	2		2		講	3・4				
教職発達科目	ABCDE-CcDb439	教職実践演習（幼・小・中・高）	2	2			演	4	左欄の授業科目について、4単位を修得すること。	教育実践に関する科目	
	ABzDz-Cczz340	教師力養成特別演習Ⅰ	1	1			講演	3			
	ABzDz-Cczz341	教師力養成特別演習Ⅱ	1	1			講演	3			

2 教職キャリア科目群
(2) 幼年教育系

区分	科目コード	授業科目	単位	必修・選択の区分		授業の方法	標準履修年次	履修方法	備考			
				必修	選択							
教職キャリア科目群	教職基礎科目	ABzzz-CaBa101	教育基礎論	2	}	2	}	2	講	1	左欄の授業科目について、12単位以上を修得すること。	教育の基礎的理解に関する科目
		ABzzz-CaBa302	教育史	2								
		ABCzE-CaBb103	教職原論	2	2		講	1				
		ABCzE-CaBc304	教育社会学	2	}	2	}	2	講	3		
		ABCzE-CaBc305	教育制度論	2								
		ABCDE-CaBd206	発達心理学	2	}	2	}	2	講	2		
		ABCDz-CaBd107	教育心理学	2								
		ABCDE-CaBe308	特別支援教育概説A	2	}	2	}	2	講	3		
		ABCDE-CaBe309	特別支援教育概説B	2								
		ABzDE-CaBf310	教育課程論	2	2		講	3				
教職キャリア科目群	教職支援科目	ABCDz-CbCa211	道徳教育論	2	2		講	2	左欄の授業科目について、13単位を修得すること。	道徳、総合的な学習の時間等の指導演法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
		ABzDz-CbCb212	総合的な学習の時間の理論と実践	2	2		講	2				
		ABCDE-CbCc313	特別活動論	2	2		講	3				
		ABzDz-CbCd214	教育方法論（情報機器及び教材の活用を含む。）	2	2		講	2				
		ABzDz-CbCd142	情報通信技術活用論	1	1		講演	1				
		ABCzE-CbCe315	生徒指導論（進路指導を含む。）	2	2		講	3				
		ABCzE-CbCg316	教育相談論	2	2		講	3				
		ABCDE-CbCf317	幼児理解論	2	2		講演	3			左欄の授業科目について、2単位を修得すること。	
		ABCDE-CbAe218	幼児教育指導総論	2	2		講演	2			左欄の授業科目について、12単位を修得すること。	領域及び保育内容の指導演法に関する科目
		ABCDz-CbAe219	保育内容健康論	2	2		演	2				
ABCDz-CbAe220	保育内容人間関係論	2	2		演	2						
ABCDz-CbAe221	保育内容環境論	2	2		演	2						
ABCDz-CbAe222	保育内容言葉論	2	2		演	2						
ABCDz-CbAe223	保育内容表現論	2	2		演	2						
教職キャリア科目群	教職発達科目	AzCzE-Cbzz424	校種間連携教育論	2		2	講	4	左欄の授業科目について、4単位を修得すること。	教育実践に関する科目		
		ABCzE-Cbzz225	社会的養護	2		2	講	2				
		ABCzz-Cbzz226	外国人児童生徒のための日本語教育	2		2	講	2				
		ABzDz-Cbzz227	外国人児童生徒のための日本語教育（演習）	2		2	演	2				
		ABCzE-Cbzz328	部活動の指導と運営	1		1	講演	3・4				
		ABCzE-Cbzz229	学校精神保健学	2		2	講	2				
		ABCDz-Cbzz230	教育・心理研究法	2		2	講演	2				
		ABCzE-Cbzz331	学校・臨床心理学	2		2	講演	3・4				
		ABzDE-Cbzz132	学校経営と学校図書館	2		2	講演	1～4				
		ABCDz-Cbzz133	学校図書館メディアの構成	2		2	講演	1～4				
		ABCDE-Cbzz134	学習指導と学校図書館	2		2	講演	1～4				
		ABCDz-Cbzz135	読書と豊かな人間性	2		2	講演	1～4				
		ABCDz-Cbzz136	情報メディアの活用	2		2	講演	1～4				
		zzzzz-Cbzz337	学校図書館学Ⅰ	2		2	講	3・4				
		zzzzz-Cbzz338	学校図書館学Ⅱ	2		2	講	3・4				
		ABCDE-CcDb439	教職実践演習（幼・小・中・高）	2	2		演	4				
ABzzE-Cczz340	教師力養成特別演習Ⅰ	1	1		講演	3						
ABzzE-Cczz341	教師力養成特別演習Ⅱ	1	1		講演	3						

3 教育実践・リフレクション科目群

区分	科目コード	授業科目	単位	必修・選択の区分		授業の方法	標準履修年次	履修方法	備考		
				必修	選択						
教育実践	初等教科内容科目	AzzDz-RaAa101	初等国語	1	1		講	1	左欄の授業科目について、10単位を修得すること。	教科及び教科の指導法に関する科目	
		ABzDz-RaAa102	初等社会	1	1		講	1			
		AzzDz-RaAa103	初等算数	1	1		講	1			
		AzzDz-RaAa104	初等理科	1	1		講	1			
		ABzDz-RaAa105	初等生活	1	1		講	1			
		AzzDz-RaAa106	初等音楽	1	1		講演	1			
		ABzDz-RaAa107	初等図画工作	1	1		講演	1			
		AzzDz-RaAa108	初等家庭	1	1		講	1			
		AzzDz-RaAa109	初等体育	1	1		講演	1			
		AzzDz-RaAa110	初等英語	1	1		講演	1			
リフレクション	初等教科指導法科目	ABCDz-RbAb211	初等国語科教育法	2	2		講	2	左欄の授業科目について、20単位を修得すること。	教科及び教科の指導法に関する科目	
		ABzDz-RbAb212	初等社会科教育法	2	2		講	2			
		ABzDz-RbAb213	初等算数科教育法	2	2		講	2			
		ABzDz-RbAb214	初等理科教育法	2	2		演	2			
		ABzDz-RbAb215	初等生活科教育法	2	2		講	2			
		ABzDz-RbAb216	初等音楽科教育法	2	2		講演	2			
		ABzDz-RbAb217	初等図画工作科教育法	2	2		講演	2			
		ABzDz-RbAb218	初等家庭科教育法	2	2		演	2			
		ABzDz-RbAb219	初等体育科教育法	2	2		講演	2			
		ABzDE-RbAb220	初等英語科教育法	2	2		講演	2			
科目群	実地教育科目	ABCzz-RcDa122	学校観察実習（実地教育Ⅰ）	1	1		実	1	左欄の授業科目について、所属ごと次に示す単位数を修得すること。 教科教育系：12単位 幼年教育系：7単位	教育実践に関する科目	
		ABCzE-RcDa223	フレンドシップ実習（実地教育Ⅱ）	1	1		実	2			
		ABCDE-RcDa324	幼稚園実習（実地教育Ⅲ）	4	4	※幼年教育系必修 ※教科教育系必修	実	3			
		ABCDE-RcDa325	小学校実習（実地教育Ⅳ）	4	4		実	3			
		zzzzz-RcDa426	中学校実習（実地教育Ⅶ）	4	4	※教科教育系必修	実	4			
		zzzzz-RcDa427	高等学校実習（実地教育Ⅷ）	4		実	4				
		AzzDz-RcDa328	初等実習リフレクション（実地教育Ⅵ）	1	1		演	3			
		zzzzz-RcDa429	中等実習リフレクション（実地教育Ⅸ）	1	1	※教科教育系必修	演	4			
		ABzzz-Rczz330	学校課題事例研究Ⅰ（実地教育Ⅹ）	1	1		演	3			左欄の授業科目について、2単位を修得すること。
		ABzzz-Rczz431	学校課題事例研究Ⅱ（実地教育Ⅺ）	1	1		演	4			
インターンシップ科目	ABCzE-Rdzz232	ABCzE-Rdzz232	学校インターンシップ実習A	1		1	実	2～4			
		ABCzE-Rdzz333	学校インターンシップ実習B	1		1	実	2～4			
		ABCzE-Rdzz434	学校インターンシップ実習C	1		1	実	2～4			

兵庫教育大学学校教育学部「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」専門部会内規

〔令和4年4月14日〕
教務委員会

(設置)

第1条 兵庫教育大学学校教育学部教務委員会規程(平成23年規程第2号)第8条の規定に基づき、兵庫教育大学学校教育学部教務委員会(以下「教務委員会」という。)に、兵庫教育大学学校教育学部「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」専門部会(以下「専門部会」という。)を置く。

(構成)

第2条 専門部会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 教務委員会委員長(以下「委員長」という。)
- (2) 「AI・データサイエンス基礎」授業担当教員
- (3) 「教育データサイエンス」授業担当教員
- (4) その他委員長が指名する者

2 前項第4号の委員の任期は、指名に際し、委員長が別に定める。

3 前項の規定による委員は、再任されることができる。

(部会長)

第3条 専門部会に部会長を置き、前条第1項第1号の委員長をもって充てる。

2 部会長は、専門部会を招集し、その議長となる。

(所掌事項)

第4条 専門部会は、「兵庫教育大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の授業科目、「AI・データサイエンス基礎」、「教育データサイエンス」の企画・立案及び実施に必要な事項の策定を行う。

2 専門部会は、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」に定められた当該教育プログラムの自己点検・評価を実施し、その結果を公表する。

(構成員以外の者の出席)

第5条 専門部会は、必要があると認めるときは、専門部会に構成員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(事務)

第6条 専門部会に関する事務は、教育研究支援部学務課が処理する。

(雑則)

第7条 この内規に定めるもののほか、専門部会の運営に関し必要な事項は、部会長が別に定める。

附 則

この内規は、令和4年4月14日に施行し、令和4年4月1日から適用する。

○兵庫教育大学学校教育学部教務委員会規程

(平成 23 年 3 月 14 日規程第 2 号)

改正 平成 24 年 3 月 26 日 平成 25 年 4 月 2 日
平成 26 年 3 月 14 日 平成 29 年 3 月 29 日
平成 29 年 6 月 30 日 平成 31 年 2 月 12 日
令和 2 年 3 月 26 日 令和 4 年 1 月 21 日

(設置)

第 1 条 兵庫教育大学学校教育学部に係る教務に関する重要事項及び実地教育に関する基本的事項等を審議するため、兵庫教育大学学校教育学部教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(構成)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

(1) 副学長のうち学長が指名した者 1 人

(2) 次の区分により、グループ責任者から推薦された者

ア 国語、英語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、家庭、技術及び幼年教育のグループを担当する教授、准教授、講師又は助教 各グループ 1 人

(3) 次の区分により、部門責任者から推薦された者

教育学、心理学及び特別支援教育の部門を担当する教授、准教授、講師又は助教 各部門 1 人

(4) 教育実習総合センターから推薦された同センター兼務の教授、准教授、講師又は助教 1 人

(5) その他学長が指名した者

2 前項第 2 号、第 3 号及び第 4 号に規定する委員の任期は、2 年とし、同項第 5 号に規定する委員の任期は、指名に際し、学長が別に定める。ただし、欠員を生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の任期の残余の期間とする。

3 前項の規定による委員は、再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

第 3 条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は、前条第 1 項第 1 号に規定する副学長をもって充て、副委員長は、委員の互選によって定める。

2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、委員長の職務を代行する。

(審議事項)

第 4 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) 教育課程の編成、改訂及び運用関係に関すること。

(2) 学生の身分の取扱い（賞罰に関することを除く）に関すること。

(3) 卒業の認定に関すること。

- (4) 実地教育の運営に関すること。
 - (5) 実地教育の成績評価の基準に関すること。
 - (6) 実地教育の内容、実施方法及び運営についての改善に関すること。
 - (7) その他教務及び実地教育の実施に関し、委員会が必要と認めた事項に関すること。
- (議事)

第5条 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ議事を開き、議決することができない。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(代理出席)

第5条の2 委員会は、第2条第1項第2号、第3号及び第4号に規定する委員が事故その他やむを得ない理由により委員会に出席できないときは、同項第2号に規定する委員にあつては当該委員が担当するグループの教授、准教授、講師又は助教を、同項第3号に規定する委員にあつては当該委員が担当する部門の教授、准教授、講師又は助教を、同項第4号に規定する委員にあつては教育実習総合センター兼務の教授、准教授、講師、助教又は同センター学校教育学部実地教育支援部門に所属するコーディネーターのうち、客員教授若しくは客員准教授の称号を付与された者を代理者として出席させることができる。

2 前項の規定により代理者を出席させた場合は、当該代理者を委員とみなす。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(幹事)

第7条 委員会に実地教育に関する事項を審議するため、幹事若干人を置く。

2 幹事は、教育研究支援部長、附属学校の副園長及び教頭その他学長の指名する者とする。

(専門委員会等)

第8条 委員会が必要と認めるときは、専門的な事項を調査検討するため、専門委員会等を置くことができる。

(事務)

第9条 委員会に関する事務は、教育研究支援部学務課が処理する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規程は、平成23年4月1日から施行する。

- 2 この規程施行後第2条第1項第3号及び第4号の規定に基づき最初に指名された委員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず学長が定める。

附 則(平成24年3月26日)

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成25年4月2日)

この規程は、平成25年4月2日から施行し、平成25年4月1日から適用する。

附 則(平成26年3月14日)

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則(平成29年3月29日)

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則(平成29年6月30日)

この規程は、平成29年7月1日から施行する。

附 則(平成31年2月12日)

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 この規程施行の際現に改正前の第2条第1項第3号の規定に基づき、学校教育専修幼年教育系コースを担当する者として専修の学部コース責任者から推薦された委員である者は、改正後の第2条第1項第3号の規定に基づき幼年教育グループを担当する者としてグループ責任者から推薦された委員、教科・領域教育専修の言語系、社会系、自然系、芸術系及び生活・健康系のコースを担当する者として専修の学部コース責任者から推薦された委員である者は、改正後の第2条第1項第3号の規定に基づき国語、社会、数学、音楽、及び保健体育のグループを担当する者としてグループ責任者から推薦された委員、学校教育専修の学校教育系及び学校心理系のコースを担当する者として専修の学部コース責任者から推薦された委員である者は、改正後の第2条第1項第4号の規定に基づき教育学及び心理学を担当する者として部門責任者から推薦された委員であるとみなし、その任期は、同条第2項の規定にかかわらず残任期間と同一の期間とする。

附 則(令和2年3月26日)

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則(令和4年1月21日)

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

兵庫教育大学学校教育学部「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」専門部会内規

〔令和4年4月14日〕
教務委員会

(設置)

第1条 兵庫教育大学学校教育学部教務委員会規程(平成23年規程第2号)第8条の規定に基づき、兵庫教育大学学校教育学部教務委員会(以下「教務委員会」という。)に、兵庫教育大学学校教育学部「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」専門部会(以下「専門部会」という。)を置く。

(構成)

第2条 専門部会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 教務委員会委員長(以下「委員長」という。)
- (2) 「AI・データサイエンス基礎」授業担当教員
- (3) 「教育データサイエンス」授業担当教員
- (4) その他委員長が指名する者

2 前項第4号の委員の任期は、指名に際し、委員長が別に定める。

3 前項の規定による委員は、再任されることができる。

(部会長)

第3条 専門部会に部会長を置き、前条第1項第1号の委員長をもって充てる。

2 部会長は、専門部会を招集し、その議長となる。

(所掌事項)

第4条 専門部会は、「兵庫教育大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の授業科目、「AI・データサイエンス基礎」、「教育データサイエンス」の企画・立案及び実施に必要な事項の策定を行う。

2 専門部会は、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」に定められた当該教育プログラムの自己点検・評価を実施し、その結果を公表する。

(構成員以外の者の出席)

第5条 専門部会は、必要があると認めるときは、専門部会に構成員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(事務)

第6条 専門部会に関する事務は、教育研究支援部学務課が処理する。

(雑則)

第7条 この内規に定めるもののほか、専門部会の運営に関し必要な事項は、部会長が別に定める。

附 則

この内規は、令和4年4月14日に施行し、令和4年4月1日から適用する。

○兵庫教育大学学校教育学部教務委員会規程

(平成 23 年 3 月 14 日規程第 2 号)

改正 平成 24 年 3 月 26 日 平成 25 年 4 月 2 日
平成 26 年 3 月 14 日 平成 29 年 3 月 29 日
平成 29 年 6 月 30 日 平成 31 年 2 月 12 日
令和 2 年 3 月 26 日 令和 4 年 1 月 21 日

(設置)

第 1 条 兵庫教育大学学校教育学部に係る教務に関する重要事項及び実地教育に関する基本的事項等を審議するため、兵庫教育大学学校教育学部教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(構成)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

(1) 副学長のうち学長が指名した者 1 人

(2) 次の区分により、グループ責任者から推薦された者

ア 国語、英語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、家庭、技術及び幼年教育のグループを担当する教授、准教授、講師又は助教 各グループ 1 人

(3) 次の区分により、部門責任者から推薦された者

教育学、心理学及び特別支援教育の部門を担当する教授、准教授、講師又は助教 各部門 1 人

(4) 教育実習総合センターから推薦された同センター兼務の教授、准教授、講師又は助教 1 人

(5) その他学長が指名した者

2 前項第 2 号、第 3 号及び第 4 号に規定する委員の任期は、2 年とし、同項第 5 号に規定する委員の任期は、指名に際し、学長が別に定める。ただし、欠員を生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の任期の残余の期間とする。

3 前項の規定による委員は、再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

第 3 条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は、前条第 1 項第 1 号に規定する副学長をもって充て、副委員長は、委員の互選によって定める。

2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、委員長の職務を代行する。

(審議事項)

第 4 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) 教育課程の編成、改訂及び運用関係に関すること。

(2) 学生の身分の取扱い（賞罰に関することを除く）に関すること。

(3) 卒業の認定に関すること。

- (4) 実地教育の運営に関すること。
 - (5) 実地教育の成績評価の基準に関すること。
 - (6) 実地教育の内容、実施方法及び運営についての改善に関すること。
 - (7) その他教務及び実地教育の実施に関し、委員会が必要と認めた事項に関すること。
- (議事)

第5条 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ議事を開き、議決することができない。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(代理出席)

第5条の2 委員会は、第2条第1項第2号、第3号及び第4号に規定する委員が事故その他やむを得ない理由により委員会に出席できないときは、同項第2号に規定する委員にあつては当該委員が担当するグループの教授、准教授、講師又は助教を、同項第3号に規定する委員にあつては当該委員が担当する部門の教授、准教授、講師又は助教を、同項第4号に規定する委員にあつては教育実習総合センター兼務の教授、准教授、講師、助教又は同センター学校教育学部実地教育支援部門に所属するコーディネーターのうち、客員教授若しくは客員准教授の称号を付与された者を代理者として出席させることができる。

2 前項の規定により代理者を出席させた場合は、当該代理者を委員とみなす。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(幹事)

第7条 委員会に実地教育に関する事項を審議するため、幹事若干人を置く。

2 幹事は、教育研究支援部長、附属学校の副園長及び教頭その他学長の指名する者とする。

(専門委員会等)

第8条 委員会が必要と認めるときは、専門的な事項を調査検討するため、専門委員会等を置くことができる。

(事務)

第9条 委員会に関する事務は、教育研究支援部学務課が処理する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規程は、平成23年4月1日から施行する。

- 2 この規程施行後第2条第1項第3号及び第4号の規定に基づき最初に指名された委員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず学長が定める。

附 則(平成24年3月26日)

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成25年4月2日)

この規程は、平成25年4月2日から施行し、平成25年4月1日から適用する。

附 則(平成26年3月14日)

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則(平成29年3月29日)

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則(平成29年6月30日)

この規程は、平成29年7月1日から施行する。

附 則(平成31年2月12日)

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 この規程施行の際現に改正前の第2条第1項第3号の規定に基づき、学校教育専修幼年教育系コースを担当する者として専修の学部コース責任者から推薦された委員である者は、改正後の第2条第1項第3号の規定に基づき幼年教育グループを担当する者としてグループ責任者から推薦された委員、教科・領域教育専修の言語系、社会系、自然系、芸術系及び生活・健康系のコースを担当する者として専修の学部コース責任者から推薦された委員である者は、改正後の第2条第1項第3号の規定に基づき国語、社会、数学、音楽、及び保健体育のグループを担当する者としてグループ責任者から推薦された委員、学校教育専修の学校教育系及び学校心理系のコースを担当する者として専修の学部コース責任者から推薦された委員である者は、改正後の第2条第1項第4号の規定に基づき教育学及び心理学を担当する者として部門責任者から推薦された委員であるとみなし、その任期は、同条第2項の規定にかかわらず残任期間と同一の期間とする。

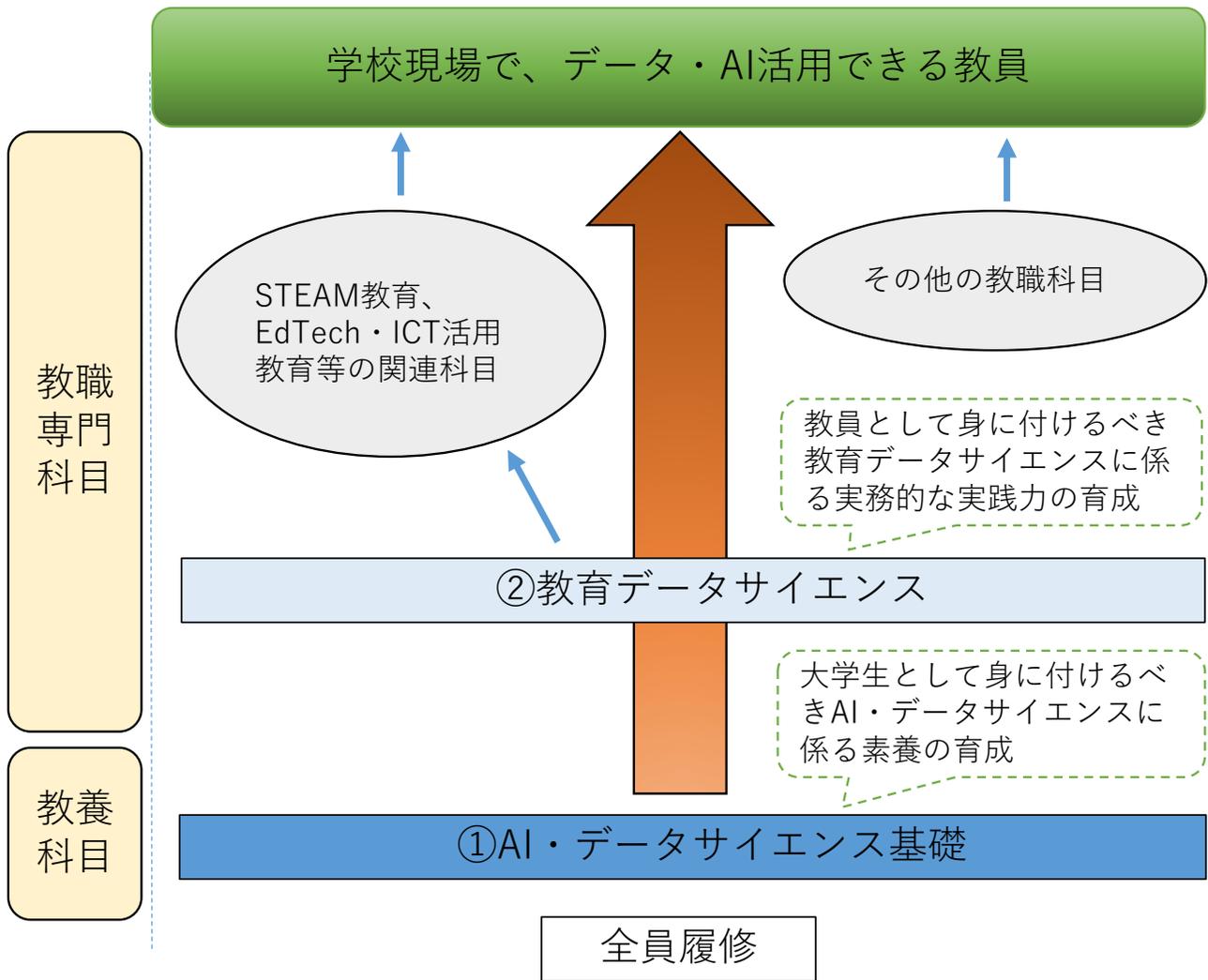
附 則(令和2年3月26日)

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則(令和4年1月21日)

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

兵庫教育大学「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」取組概要



(概要)
 兵庫教育大学に入学した学部生全員が1年生前期に「AI・データサイエンス基礎」(2単位)を、1年生後期に「教育データサイエンス」(2単位)を履修する(履修率100%)。

(プログラム修了要件)
 「AI・データサイエンス基礎」(2単位)「教育データサイエンス」(2単位)を修得すること。

(プログラムの特徴)

- ・「AI・データサイエンス基礎」では、放送大学のコンテンツを活用し、モデルカリキュラムに準拠したオンデマンド型講義と、BYOD端末を活用したデータリテラシーの対面演習を行う。
- ・「教育データサイエンス」(全て対面型)では、前半でデータサイエンスに関する基礎的事項を中心に学習した後、後半では学校現場での実務を想定した実践的な演習を中心に行う(後半は、40名×4クラス)。
- ・数理情報科学、教育心理学、教科教育学などを専門とする教員が連携して授業を担当することで、数理・データサイエンス・AIに関する専門的な学びと、学校現場での実務に即した実践的な学びとを両立している。

(自己点検・評価の体制)
 教務委員会のもと、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」専門部会を置き、プログラムの企画・立案及び実施に必要な事項を策定するとともに、プログラムの自己点検・評価を実施し、結果を公表する。